

- 箱罟、くくり罟、囲い罟、ドロップネットなどに害獣が捕獲されたかを遠隔で監視するシステム
- 捕獲を加速度や赤外線センサで検知し、モバイル通信で中継器からサーバに転送、管理者にメールを送信
- 検知回数から捕獲を判断。捕獲日時、場所、種別、スマホで撮影した写真等をサーバで管理

企業概要

アイニックス(株)
03-5728-7500

・本社は東京、大阪と名古屋に営業所があり、全国で営業しています。
・バーコードやRFIDなど自動認識機器の販売、自動認識ソフトの開発、通信・クラウドサービスの提供、および、製造・物流・小売・医療分野における自動認識ソリューションの開発をしています。



赤外線RF監視タグ



加速度RF監視タグ



中継器

機器情報

機器の概要

◇捕獲をメールでお知らせ

- ・5分間隔の検知数が分かるので、**風、雨、捕獲を判断できます。**
- ・夜間はメールを停止し、早朝に蓄積データを送信します。
- ・携帯電話から一時停止または一日停止を設定できます。
- ・RF監視タグのバッテリー電圧を定期メールでお知らせします。

・中継器の設置

中継器はタグとの通信距離を長くするために、出来る限り高い位置に設置します。タグとの通信距離は、見通しで約1kmです。

・RF監視タグの接続数

中継器に最大100個のタグを接続できますので、ひとつのモバイル通信契約で**100カ所を監視**できます。

使用目的、対象鳥獣

捕獲通知

箱わな、くくりわな、囲いわな、ドロップネットなどわなに合わせで監視タグを選択可能です。→捕獲対象は限定されません！

機器の詳細

・加速度RF監視タグ

加速度センサにより罟の振動を検知。箱罟、くくり罟に適しています。動作期間は、検知回数によりますが、単三電池2本で約3ヵ月です。

・赤外線RF監視タグ

赤外線センサにより害獣を検知。箱罟、囲い罟に適しています。動作期間は、検知回数によりますが、単三電池2本で約3ヵ月です。

・中継器

RF監視タグと通信するアクセスポイントとモバイル通信のM2Mアダプタ、および、バッテリーで構成されています。バッテリー寿命は、検知回数によりますが、約1ヵ月で交換します。

導入実績

▶ 長野県須坂市の実証実験

加速度RF監視タグを装着したくくり罟を5カ所に設置

▶ 青森県むつ市の実証実験

箱罟と囲い罟に赤外線RF監視タグを装着

▶ 鳥取県八頭町の実証実験

加速度RF監視タグを装着したくくり罟を10カ所に設置

加速度RF監視タグ(箱わな設置)



加速度RF監視タグ(くくりわな設置)



活用技術

- ・加速度センサは、1.5G以上の加速度で検知します。
- ・赤外線センサは、約12mの検知範囲です。
- ・LPWA通信は、出力10mW、約1kmの通信距離です。

イニシャルコスト、ランニングコスト

▶ イニシャルコスト

- ・加速度RF監視タグ5.8万円、赤外線RF監視タグ6.5万円、中継器33万円は、はじめに購入頂きます。設置費用は、お見積りします。

▶ ランニングコスト

- ・わなタグサーバの20台接続ライセンスは、月額 4,500円です。